



○よしおかふるさと祭りでの大樹町物産販売

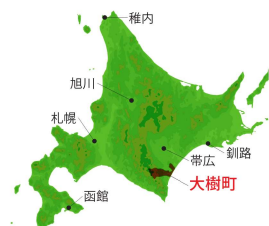


○大樹町自然公園祭りでの吉岡町物産販売



平成20年度から物産交流がスタートしていた北海道大樹町と、お互いの信頼と理解を深めるとともにこれまでの友好関係をさらに推進するため、平成23年度に友好都市協定を結びました。以降、道の駅よしおか温泉にある物産館がさぐるまでの物産販売やお互いのお祭りへの参加協力のほか、子ども交流事業など、組織的な交流も活発に行われています。

大樹町



大樹町は北海道の東部、十勝の南に位置し、東は太平洋、西は日高山脈に接しています。中央部は広大な十勝平野が広がり、農業を中心に漁業、林業を基幹産業として発展してきました。

日高山脈から日本一の清流「歴舟川」がまちを流れ、海岸には原生花園が広がり、美しい自然に恵まれています。町名は、アイヌ語で「大木が群生するところ」を意味する「タイキウシ」に由来します。

紡ぐ6

将来を見据えた 行財政運営の推進



健全な財政運営とともに、自主財源の確保に向けた取り組みを進めています。行政改革を進め、支出の適正化を図り、目標管理に基づく行政経営に努めています。

健全な行財政の推進

自治会の財政面での支援を継続的に、自治会活動の推進を図っています。また、ポイント事業などを通して、ボランティア活動を支援しています。行政情報の発出に当たっては、誰もが見やすく分かりやすい町広報誌の発行と、ホームページの作成を目指しているほか、SNSなどを活用し、情報発信力の強化に取り組んでいます。また、企業との包括連携協定の締結など、官民共創を進めています。

協働のまちづくりの推進

地域活動の活性化を促進し、町政と住民がともに力を合わせた協働のまちづくりを推進しています。住民の利便性向上に向けてデジタル社会に対応したスマート自治体への変化を図り、知恵と行動力で将来を見据えた堅実な行財政運営に努めています。

デジタル化の推進

デジタル技術の恩恵を全ての人が享受できる社会の実現が求められるなか、町は、「誰一人取り残さないデジタル化の推進」に取り組んでいます。証明書などのコンビニ交付サービスを行うほか、マイナンバーおよび電子申請システムを活用した、行政手続きのオンライン化を通じて、住民の利便性向上を図っています。情報セキュリティの確保に留意し、住民ニーズと行政の事務処理効率化を踏まえたマイナンバーカードの利活用に取り組んでいます。

